授業科目　言語発達障害Ⅱ

【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	言語
相場恵美子	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【概要】

言語発達障害Ⅰに引き続き、言語発達障害の各論について解説します。
特に、器質的/機能的な脳機能障害に関連する言語障害について学んでいきます。
また、必要な検査法や訓練教材の作成を実習します。

【学習目標】

・各障害の臨床像について、臨床像の特徴と発達課題を理解する。
・言語聴覚士として発達障害児に関わる際の枠組みを構築できるよう努める。
・各種検査の神経心理学的評価への応用を学ぶ。
・問題点に即した訓練教材を作成する。

回数	授業計画又は学習の主題		SBO番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1-2	特異的言語発達障害	特異的言語発達障害の臨床像・　評価・訓練		講義
3-4	学習障害	学習障害の臨床像・評評価・訓練		同上
5	注意欠陥他動障害	注意欠陥他動障害の臨床像・評価・訓練		同上
6	小児における脳損傷	脳損傷児の高次機能障害		同上
7	発達障害児の生活	発達障害児の生活と言語聴覚士の関わり		講義/討議
8	検査法	神経心理学的検査の紹介		講義・演習
9	援助の技法	言語発達障害への取り組みの紹介		講義
10	文献講読	特異的言語発達遅滞児の症例報告		演習
11-12	個別検査の実際	WISC-Ⅲ実習		演習
13	症例の評価	症例の評価		講義/討議
14	教材の作成	訓練教材の作成		演習

参考書	ことばの障害入門	西村辨作編	大修館書店	2001年・2200円
その他の資料				

【評価方法】
平常の学習状況
定期試験

【履修上の留意点】
・専門書や論文を積極的に読み解いていく姿勢を望みます。